

地獄への道は、善意で舗装されている

2008/09/12 05:44

歴史の教訓を忘れないならば、我が国の政治が今一番重要な地点と捉えるべきは、インド洋である。そして、政治の一番重要な任務はシーレーン防衛であり、同時に、[北朝鮮](#)による拉致被害者救出である。

つまり、政治家が常に国家と国民を思っているならば、この三点が常に具体的に頭の中にあるはずだ。しかるに、現在の与野党の「党首候補者」はこれを語らない。

昨日、党首選の無投票が決まった[民主党](#)は、「生活が第一」だという。しかし、私が指摘した懸案事項を無視しては絶対に生活は守れない。思うに、この懸案事項を見つめれば党が分裂するから、「生活が第一」でお茶を濁しているだろう。

しかし、このように、国家の懸案事項を無視して集団の一体化を優先するのは国民に対する裏切りであり、もはや「政党」ではない。多様な考え方の人が「賃上げ」という一点でまとまる労働組合ならそれでいい。しかし、政党と名のらせるわけにはいかない。不当表示である。従って、政党助成金を受け取るのは詐欺である。

振り返れば、このような「政党」を長年存続させる我が国の政治風土こそ、改革の対象ではないか。

他方[自民党](#)は、多数乱立の党首選だが、同じく指摘した懸案事項は回避されている。各候補者の経済政策、経済路線の違いを際立たせた争いだという。しかし、インド洋、シーレーン、拉致を軽く観た経済政策など絵に描いた餅だ。

また、候補者に防衛大臣経験者が複数いるから実りある防衛論争が観られるという。冗談ではない。今の日本では、防衛大臣を波乱なく務めれば、国防議論ができなくなるのだ。彼らは、「自衛隊は軍隊ではありません」とそつなく答えることから「大臣」を始める。このような「経験者」に国防議論ができるはずがない。彼ら「経験者」は、我が国政治が国家を守る為に「何ができるか」を見極めるのではなく、[憲法九条](#)により「何ができないか」を説明する大臣となる。

仮に彼らが「何々をしなければならない」と言えば、私が防衛政務次官として「核」に言及した時のような大騒ぎが起こる。従って、彼らはしなければならないことを言わないから大臣になるのである。目を見れば解る、要するに彼らは「[おたく](#)」だ。



さて、歴史を振り返れば振り返るほど、[インド洋](#)とシーレーンが気になる。夜に目が覚めることがある。何故なら、[インド洋](#)の治安が乱れ、シーレーンが切断されれば、我が国は崩壊するからである。

[北京五輪](#)中に、インド洋西端のソマリア沖で海賊に乗っ取られた日本のタンカーは今どうなっているのか。何処の國が救助に向かっているのか。日本のタンカーを守るためには我が国はどうすればいいのか。

言うまでもなく、日本のタンカーが攻撃されて対処する國がなければ、日本はそれだけでパニックに陥る。世界で日本の株価は暴落するだろう。

幸い、その海域には多国籍海軍がいて対処してくれている。従って、我が国の政治は無関心を装えるのである。これは、国民が知らないのを幸いに、長年拉致被害者を見捨ててきた精神構造と同じである。共に、許せるものではない。

現在、テロリストの最大の攻撃対象である石油関連施設があることから、世界に脅威を与え、日本経済を崩壊させかねないインド洋西端のペルシャ湾海域において、[アメリカ](#)、[イギリス](#)、[オーストラリア](#)、[フランス](#)、[ドイツ](#)、[イタリア](#)、[ア](#)、[パキスタン](#)、カナダ、ニュージーランド等の國の海軍が恒常的に参加して治安を維持している。この多国籍海軍の任務は「海洋安全保障作戦」と呼ばれている。



地獄への道は、善意で舗装されている:イザ!

この海洋安全保障作戦のおかげで、我が国に油が支障なく運ばれている。我が国は、この作戦を支援するというより、この作戦に参加しなければならないのではないか。国際貢献ではなく、自らの國を維持する為である。

しかるに、我が国が、この多国籍海軍の任務に関与し、または支援することを「[憲法違反](#)」という党首候補者が無投票で再選される「政党」とは何か。国家を滅ぼす「最大、最悪の偽装」である。

「地獄への道は、善意で舗装されている」という言葉を想起するべきである。

・[9月9日](#)に開催された西村塾公開講座の挨拶で。内容は同日付けの時事通信と同じなのでこれから一部紹介しました。

カテゴリ: [コラム](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(0\)](#)

タグ: [国益](#) [インド洋](#) [シーレーン](#) [拉致](#) [主権](#)